

群 教 セ	G15 - 01
	令3.274集
	小-キャリア

令和3年度長期社会体験研修報告書

研修先：群馬ヤクルト販売株式会社

長期社会体験研修員 白尾 亮一郎

I 研修内容

1 研修先の概要

群馬ヤクルト販売株式会社（以下、群馬ヤクルト）は、ヤクルトブランド商品（乳製品乳酸菌飲料、化粧品、清涼飲料水、食品など）を販売する企業の一つである。群馬県や各市町村と包括連結協定を結び、行政と連携し県内の人々の健康の課題解決を行っている。販売実績は、全国第1位（ヤクルトグループ101社中）であり、最優秀販売会社賞を5期連続（15年連続）で受賞している。これは『一人でも多くのお客様に「健康と美」をお届けすること』を使命とし、長年かけてお客様との対話を通じて、信頼関係を築くことを大切に、商品の価値を伝える活動を積み重ねてきたからこその実績である。

また、群馬ヤクルトは、従事者の健康保持や健康増進への取組が認められ、経済産業省認定の健康経営優良法人2021を取得している。その知識と経験を生かし、県内の企業や教育機関を訪問して、健康経営の推進を行っている。地域社会への貢献を第一に考え、様々な取組を行っている企業である。

2 研修先での主な研修内容

(1) 新入社員研修【4月～5月】（研修場所：本店、自動販売機設置場所）

役員や各部門長の講話から、企業理念などを全従事者が共通理解し、ワンチームで取り組むことの大切さを学んだ。研修の中で提案した自動販売機のポップ（動く飾り）が実際に設置された。また、体の仕組みや栄養、商品知識について学び、新入社員研修を通して身に付けた内容や会社への新たな提言をまとめ、役員へのプレゼンをすることができた。

(2) 直販サービス部ベンディング課での研修【6月～8月】（研修場所：本店、自動販売機設置場所）

自動販売機への納品業務やセール商品案内の営業などを行った。また、課の若手社員に対して「企業で活躍するために必要な力」についての研修を講師として実施した。

(3) 未来価値創造部での研修【9月～3月】（研修場所：本店、教育機関）

「日々児童生徒のために尽力している先生方に、健康経営の考え方をもっていただくことが必要」と考え、県内30以上の教育機関で職員、児童生徒向けの健康教室の案内及び運営を行った。

(4) 宅配サービス部での研修【10月～12月】（研修場所：サービスセンター）

サービスセンターにて社員に同行し、お客様のご自宅や事業所へ商品のお届け業務を行った。お客様との信頼関係を築くために、対話を通じてコミュニケーションを図る大切さを学ぶことができた。

(5) 人材開発部研修【1月～3月】（研修場所：本店）

社員やヤクルトスタッフへの研修講師や、学生向けのインターンシップ業務に携わった。

(6) エンゲージメント向上プロジェクトへの参加【通年】（研修場所：本店）

上司と部下の信頼関係の向上や、社員の会社へ貢献したいという気持ちを向上させることを目的とした有志によるプロジェクトに参加した。「若手社員のやりがい向上や、絆を深めるための座談会」や「部下の成長支援を考えるための上司向けの座談会」の計画及び運営を行った。

3 キャリア教育実践

(1) キャリア教育資料について

テーマを「社会に出て活躍するために学校で頑張れること～学校と社会はつながっている～」と

した。仕事の意義は社会貢献であることや、学校生活や授業には、社会に出た際に必要な力を高める様々な工夫があることを考えられるよう、学校生活とそれに関わる社会に出て必要な力を並べて記載した。児童生徒が、学校と社会とのつながりを理解することで学校生活への意識が高まり、主体的に授業や行事などに取り組むことができるようになると考え作成した。

(2) 実践の概要（高崎市立滝川小学校）

授業実践

題材名 「学校生活と社会のつながりを考えよう」（特別活動）

対 象 第6学年1組 32名

1時間目は、仕事の意義である社会貢献について理解することを目的とした。複数の具体的な職業についての社会貢献を考える活動では、双方向授業支援アプリを使用し、グループで情報を共有させた。振り返りでは、仕事とは、「人々の役に立つため」や「喜んでもらい笑顔にするため」などの社会貢献に関する記述が児童全員に見られた。2時間目は、学校で頑張っていることが、将来生きることに関心させることを目的とした。群馬ヤクルトの仕事内容を紹介し、授業や学校生活と比較しながら、似ているところを見付ける活動を行った。双方向授業支援アプリを使用し、全体での意見共有を行った。振り返りでは、「好きなことだけでなく、色々なことに挑戦して、自分から行動したい」などの記述が見られ、児童が今後の行動目標を設定することができた。

Ⅱ 研修成果

1 キャリア教育実践について

企業で働きながら学校を見つめ直すことで、社会に必要な基礎的な力（社会人基礎力）である「前に踏み出す力、チームで働く力、考え抜く力」を高める工夫が、学校生活には多くあることに気付くことができた。児童生徒は、授業や学校生活が自分たちの将来と深く関わっていることを理解することで、主体的に取り組めるようになると考える。そのために、学校と社会がつながっていることをまず職員に伝えていき、学校全体で児童生徒の将来を見据え、指導・支援できる職場にしていきたい。

2 健康経営について

企業で「健康経営」の考え方について学んだが、児童生徒の将来を担う学校こそ、健康に働ける環境を作ることが必要であると考え。先生方が健康で生き生きと働くことで、児童生徒の安心・安全の確保、安定した学校経営や授業の質の向上などにつながるメリットがある。また、学校現場は働きやすいというイメージが広がることで教員志望者も増え、教育の質が更に向上すると考える。県内の先生方が生き生きと働けるように「健康経営」の考え方を広げていきたい。

3 革新の精神

群馬ヤクルトが大切にしている価値観の一つに「革新の精神」があり、経営においては「日々変わる状況に応じて新たな発想で新しい価値を生み出す」必要性を学んだ。学校現場でも高い志をもち、よりよい職場環境、働き方、指導方法などを考え、提案していきたい。

Ⅲ まとめ

社員として主体的に活動したことによって、社会で必要な力を、身をもって学ぶことができた。また、教員の社会貢献について改めて考えたことによって、児童生徒の生きる力を育てている教員という仕事のすばらしさを再認識できた。児童生徒に社会で必要な力が身に付くように尽力するとともに、児童生徒の目の前にいる社会人である私自身が、手本となれるように社会人基礎力を高めていきたい。研修を通して学んだことを先生方や児童生徒に還元できるように頑張っていきたい。

（担当指導主事 小林 浩之）